

三宮副管理者：石井副管理者も原口管理者も3市の枠組みを変えないで進めるにあたり、その中で石井副管理者から様々な疑問が生じて、それについて調べて、結果として半年遅れたと、それならばいいんだけど、その辺の疑問を答えなくて、この先進めたならば、結果この問題は出てくるように思う。都市計画決定とか農振除外とか土地購入等々、大変重いだらうと思いますので、先の事例を見ながら、令和6年稼働はあるけれども、しかしこの所がクリアできないと結果として先に進めない。それで、次の日程が決まっているようだけれども、できるだけ努力して、明日出てくれとは言わないけれども、正副管理者に説明をしていただきたい。

私の方からは、予算取りの根拠としてこういうふうによく作っていただいた、しかしながら、11社から実際的には2社しか取れなかった。当初出てきたのは5社で、それも皆ストーカ方式。仕様書では、処理方式がまったく指定がなくてどっちでもいいと言った結果、全部ストーカ方式で出てきたのか。今、専門の大学の先生等を入れてやっているが、そこでまだどういう方式かは決まっていなと思うが、それでこの見積もりだけで、場合によってはストーカ方式に溶融方式をプラスするというのもあるかもしれないし、最近では国の補助金で前やったけど、結果としてはだめだったので溶融方式はやっていないなどあるが、そういうところを専門の先生方に検討をお願いしたのか。あるいは専決処分で行ったと思うが、見積もり取ることはどういう起案だったのか。そもそもこの2社で債務負担行為できるのかどうかというのが私には疑問に感じた。仕様はどうか、誰に出したのかは大体分かったが、いつ出したのか。いつ出したかによっては期間が短くて見積もりが出せないという所もあったのではないかと。

肥後副参事：まず方式については、焼却方式（ストーカ式）、ガス化溶融方式（シャフト炉式）、ガス化溶融方式（流動床式）の3方式の中から、メーカーで選んでいる。決裁については、8月5日に事務局長専決で見積もりをメーカーに依頼している。

三宮副管理者：プラント方式は、原口管理者と石井副管理者と私で、それで行こうというところがあってやるんだけど、今回の場合、プラント方式は3つのやり方でどっちでもいいから提案してという、そういう発注の仕方はあるのか。仕様書がそういうふうになっていたということで、結果としてストーカ方式が上がってきた。今後専門家の話の中で、そうじゃないよという意見があれば変わっていくのか。

黒澤課長：事業者選定委員会では3方式を採用することでお願いしている。

三宮副管理者：であれば、3方式で見積もりを取らなければいけないのではないかと。

黒澤課長：3方式であれば入札には参加できるような形にはなる。